

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

【学校像】伝統ある普通科高校として、以下の学校をめざす。

- ・ 希望に応じた進路実現をサポートする学校
- ・ 次代を担う志高くたくましい人材を育てる学校
- ・ 地域に信頼され誇りとされる学校

【育てる力】授業・学校行事・部活動・地域連携等を通じて、以下の力を育む。

- ・ 確かな学力とキャリアデザイン形成力
- ・ 校訓「自律・敬愛・共創」 自ら規律を重んじ他者を敬愛しながら、共働して価値あるものを創り出す力
- ・ 知徳体備わった豊かな人間性

## 2 中期的目標

## 1 学力向上と進路実現

(1) 新学習指導要領と本校の実情や将来像をふまえ、「確かな学力」の定着と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組みを図る。

- ア 各教科の授業改善について「生徒の発言を引き出し、表現力を高める授業づくり」を共通目標として推進し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成していくことをめざす。
- イ 教員の授業相互見学や研究授業の活性化などを通して、教科横断的な授業改善の取組みを充実させる。
- ウ 「学校教育自己診断」や「生徒の授業アンケート」等を利用して授業力向上に努め、生徒の授業充実度を向上させる。
- エ 全教室に設置された電子黒板を活用して視聴覚教材メニューの充実を図る。
- オ 学習ニーズの多様化をふまえた選択科目の充実をはかり、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望に応じて学習できる教育活動の展開に努める。

\* 「授業アンケート」の生徒の充実度（質問項目「興味・関心」「知識・技能」）について、第1回より第2回を0.02 Pアップさせる。

(2) グローバル化や情報化社会に向けた国際的な視野をもとに英語コミュニケーション力を身に付けさせる。

- ア 「学習基礎」(毎朝のモジュール型学習：通称朝学)において、モジュメディアステーション(一斉配信機能付き電子黒板)を活用して英語ディクテーションを中心とした学習で「聴き・書き取る英語力」と「集中力」を身につけさせる。
- イ 平成27年度学校経営推進費事業で支援された「英語多読・多聴ステーション」をさらに充実し発展させる。
- ウ 英語力の習得に特化した海外・校内語学研修の充実やスピーキングテストを実施することで、4技能を統合した発信する力を育成する。

(3) 生徒の進路希望を実現させる。

- ア 進路目標に応じたコース(文理系・文系・総合)の指導を強化し、講習・ガイダンス等の充実をはかるとともに、入試結果の実績維持・伸長をめざす。

\* 学力生活実態調査(Bゾーン以上の成績を有する生徒が、学年の過半数)及び、英語学力調査(スコア430点)

\* 中堅・難関大学現役合格者数及びセンター試験出願者数が、8クラス規模で令和2年度220名及び90名以上、令和3年度225名及び95名以上、令和4年度230名及び100名以上。(H29.298名及び101名(9クラス)、H30.222名及び90名(8クラス)、R1.348名及び133名(9クラス))

## 2 志学・総合学習(総合探究)の推進

(1) 校訓「自律・敬愛・共創」(平成30年7月設定)の志を持ったよき社会人として、多様な他者の考え方や生き方を相互に認め合いながら、新たな価値あるものを共に創り上げていく資質と能力を養うための志学・総合学習(総合探究)実施計画を推進する。

- ア 総合学習(総合探究)・志学推進委員会は、分掌、委員会、教科、教員個人の実践やスキルの中から多くの効果的な情報を得て、より充実した取組みになるよう企画立案・実践していくことで総合学習(総合探究)・志学を推進していく。
- イ 修学旅行を総合探究・志学の実践研修の一環としてとらえ、異種の文化・職場体験等を通してより具体的なキャリアデザインを形成できる機会となるよう企画する。
- ウ キャリア教育、ボランティア活動、ライフプラン作成等、各分野での実践を検証し、志学との相乗効果を図る。
- エ 人権教育、道徳教育を中心に、命の大切さを学び、自他を尊重する人権意識と、他者によりよく生きるための基盤となる道徳性を養い、一人ひとりが将来に対する夢や希望を持ち、自らの人生や未来を切り拓いていく力を育む。

(2) 国際交流活動の充実を図る。

- ア 外部関係機関等と連携し、海外の高校生等との交流を通じて国際理解を深め、コミュニケーション能力を高める。

(3) 読書活動の推進を図る。

- ア 図書館を中心に読書活動の推進を図る。

## 3 府民に信頼される魅力ある学校づくり

(1) 生徒指導・支援体制の確立(「自律・敬愛・共創」の志を育む)

- ア 支援相談委員会が、「高校生活支援カード」を活用して、支援を必要とする生徒等に対して、実態の把握と個別の支援策を考えるとともに、「個別の支援計画」を作成して支援していく。また、支援方法等の研修を行い、共通理解の促進と支援活動の充実を図る。
- イ 自治会活動に対する指導の充実を図り、文化祭、体育大会等の諸行事について生徒の主体性と自治運営力を向上させることで活性化させ、充実感を育むとともに、地域や保護者との交流を深め、お互いの信頼関係を深める。
- ウ 生徒指導・支援のあらゆる場面において、生徒の自律(規範意識、マナー意識等)や、敬愛(あいさつ、思いやり等)する心を醸成する。また、遅刻数のさらなる減少、自転車事故等の防止に重点を置く。\*遅刻者数の令和元年度比からの減少をめざす。
- エ 部活動を推進し、バランスのとれた心身の成長と健全な人間関係を形成する力の育成を図る。

(2) 学校運営体制の強化

- ア 学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。
- イ 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る。
- ウ 働き方改革の取組みとして業務の効率化を促進し、意識の改善を図る。

(3) 開かれた学校づくり

- ア より開かれた学校をめざし、積極的な情報提供や広報活動、ボランティア活動などを通して地域交流を展開していく。
- イ 令和4年の創立百周年記念事業に向けて「ALL ABENO 共創100周年伝統と志を地域とともに未来へ!」をスローガンに、100周年記念実行委員会の主導のもとに生徒・PTA・教職員・同窓会等オール阿倍野態勢で、さらなる進化発展(「めざす学校像・生徒像」と、地域や関係者からの高い評価をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【変更点・概要】本年度アンケート調査より、保護者からの要望もあり回答項目に「わからない」を追加することとし、これまでの質問内容を精査した結果より質問項目を減らすとともに回答しやすい文章に改編した。結果として、学校の方針が明確でない教育活動や学校の体制について、説明や理解が進んでいないことが示されることとなった。従来とほぼ変わらないデータとして「学校の楽しさ」「入学させて良かった」の肯定値は、生徒・保護者ともにほぼ昨年並みで高い数値となった。授業の満足度は例年を維持する結果となっているがその一方で、放課後や長期休業中の「補習・講習」については、生徒・保護者ともに「もう一つ上のランク」をめざす対応を求めており改善の必要が見える。</p> <p>【学習指導】教員側の「生徒の発言を引き出し、表現力を高める授業づくり」の肯定感に対し生徒側の受け止めもしっかりと反映できている。また、学校の様子を家庭で話す生徒も増加傾向にあり、学校の学習活動を家庭へ持ち帰り継続して学習できるよう授業中のきめ細やかな生徒対応を今後もめざす。「ICT機器等活用」については、本校のスタンダードとなっており活用率は極めて高い。今後は、従来設置済みの「電子黒板」に加え今年度末までに全HR教室+展開教室に「黒板」に代わる「低反射ホワイトボード」がさらなるICT化を推進することに期待している。さらには、来年度から本格的に実施される「1人1台PC(タブレット)」事業に対応する組織として、今年度立ち上げたPTメンバーを中心に授業力向上を踏まえながら今後「オンライン授業」の体制作りや近未来の「求められる授業スタイル」を検証したい。</p> <p>【生徒指導】本校の生徒指導についての理解は一定の肯定値を得ているが、「教育相談体制」や「いじめ対応」について生徒・保護者への丁寧な説明が今後求められている。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、全ての行事が変更された教職員の創意・工夫により代替えたホームルーム活動(学年行事)をとおして、課外活動を楽しめている生徒が多くみられる。今年度は、遅刻・欠席についても改善が見られ、生徒の意識改革とともにこれからの本校独自の生徒指導のあり方を考える機会にしたい。</p> <p>【進路指導】アンケート結果より卒業後の進路に向けた情報提供や生徒・保護者との相談について、さらなる改善が求められている。また、放課後の補習や長期休業期間中の講習を学校組織で対応し、「ワンランク上」の進路目標を実現させるサポートを今後も努力していく。1年次より、HRや探求の時間をとおして「キャリアガイダンス」を継続してきている。生徒本人への定着も進んでいるようであったが、自分で進路を切り開く力をつけさせるような指導を今後はめざしたい。また、今年度から実施の「大学共通テスト」対策や「推薦入試」に対しても今年度の実績や反省点を十分に活かし、大学入試状況・動向を見極めながら生徒・保護者への説明や情報提供の改善を図りたい。</p> <p>【学校経営等】学校の施設・設備に対する意見も真摯に受け止め、年次毎の改修・修繕に加え日々の清掃活動にも今後適材適所に重点を置き推進していく。昨年度より学校ホームページのリニューアルによる更新回数増加やメール配信システムによる「メルマガ」をグループ別への配信回数を増やすとともに、感染症対策にも活用するなどしてきた。今後も学校ホームページをつうじて「在校生・保護者への情報提供」や「災害・緊急事態」対策のために活用していくとともに、学校説明会等「本校進学希望者・保護者」への対応として、「オンライン説明会」の配信や学校案内全般にも利用を推進する。</p> <p>【交流活動】今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため全ての国際交流・他の教育機関との交流活動計画が中止となった。来年度以降は、政府や府の感染症対策を基本に十分な対策を考慮し、これまで実績を重ねてきた本校独自の交流活動を再開できるよう計画を進めていきたい。</p>	<p>【第1回】7月13日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大による影響で十分な学習保証ができていないか懸念される。</li> <li>・学校行事は特に生徒の日頃の教育活動の発表の場でもあるので、感染症対策を考慮しつつ何らかの形式で実現させてもらいたい。</li> </ul> <p>【第2回】11月13日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート結果と併せての分析から見て、コロナ渦でありながら生徒たちが授業を受け知識や技術が身についた満足感を得ることができているようである。</li> <li>・学校生活の中で、生徒たちにとって行事は人格形成等に影響する大変重要な教育活動であることは確か。学校独自の努力で実施できたことに成果が見られる。また、コロナ渦でありながらも何ができるかを常に考え続けて欲しい。</li> <li>・今後は、オンライン授業を視野に入れたICT機器の活用を踏まえた新しい授業形態の研究をさらに進めてもらいたい。</li> </ul> <p>【第3回】2月10日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部の報告にも指定校推薦による進学者数が伸びてきており、校内の講習体制を整え生徒・保護者の希望する進路を確実なものになるよう学校全体をあげて取り組んでもらいたい。</li> <li>・今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による影響で「メルマガ」配信による情報提供が保護者に安心を与えた。今後もオンライン配信による迅速な情報提供ができるよう配慮してもらいたい。</li> <li>・海外との交流事業については、まだ先が見えないが学校行事と同じく生徒のために何ができるかを模索しながら取り組んでもらいたい。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 学力向上と進路実現</p>	<p>(1) 「確かな学力」の定着と授業改善 ア 授業改善と学力向上に向けた取組みの強化 イ 新教育課程の取組み</p>	<p>ア a 学習支援室と各教科が連携して、授業アンケート(年2回実施) 学校教育自己診断、相互授業見学等に取り組み、結果を総合的に分析し、課題を共有し、更なる授業改善を進める。 b 管理職授業参観後のディスカッションや校内職員研修を通じて理解を深め、生徒の主体的な深い学びを引き出すスキルの向上を図る。 c 土曜学習会、補習、講習等学習支援の取組みを充実させる。 イ a 「将来構想委員会」を中心に、新カリキュラムの検討や学習面、進路面での諸課題に迅速に対応する。 b 「主体的で対話的な深い学び」の実現に向けて、各教科の授業において定期的に論理的なディスカッション活動を導入する。</p>	<p>ア a 授業アンケート、学校教育自己診断(以下、「アンケート」と記載)による生徒満足度、「わかりやすい授業・教え方に工夫」8割程度、教員のICT活用率6割程度をめざす。 b 管理職授業参観調査「グループ、ペア、自発的な相談時間で意見を共有させていた授業数」45%(令和元年度42%) c 「土曜学習会」参加者数平均135名。(令和元年度、平均131名) イ a 学習指導要領改訂を踏まえた新教育課程の完成。 b 科目の特性に応じて、単元毎に最低1回以上、意見交換や意見発表等を実施。 ・管理職の授業観察で意見交換や意見発表の設定率5割以上。</p>	<p>ア a 「わかりやすい授業等」78%( ) ICT機器活用「64%( ) b 「グループ等意見共有」40%( ) c 参加者数平均83名( ) コロナ禍の影響あり イ a 令和3年度入学生カリキュラム完成( ) b 臨時休校による課題作成やオンライン授業の研修、情報交換を優先した取り組みに変更して実施。( ) ・管理職の授業観察は校長、教頭からコメントを提示( )</p>
	<p>(2) 次社会に向けた力の育成 ウ 英語力、コミュニケーション力の育成 (3) 進路実現に向けての取組み エ 進路指導 オ 生徒へのガイダンス機能の充実</p>	<p>ウ a 「学習基礎」(朝学)については、モジュールアステーションの活用による英語ディクテーション学習を計画し、「みる」「きく」等の感覚機能を活性化し、脳トレーニングを毎日実施する。 b 英語科授業での「多読・多聴活動」を推進する。 c 英語4技能のうち「話す」能力の向上をめざした短期語学研修や校内イングリッシュ研修やスピーキングテスト等、特別な取組みを計画して実施する。 エ a 新教育課程における進路目標に基づいて、進路指導の方針を確立する。その中で「進学講習」「学習キャンペーン」等を推進し、質的・量的な充実を図る。 b 進路指導部と連携し阿倍高塾の授業内容の充実と映像教材の指導充実を図る。 c 入学時の学力の維持・向上に努めることを目標として、学力生活実態調査、英語学力調査等を用い、進路実現を図る。 オ 学習ガイダンス、進路ガイダンス機能を充実させる。(選択科目説明会・進路別説明会・学問別説明会等の充実) a 年度当初に保護者の進路情報ニーズをきめ細かく把握する。 b 3年次への進級に先立ち、2年次3学期に、センター試験受験の意義や効果的な受験対策について情報提供を行う。</p>	<p>ウ a 一斉映像配信英語教材の研究と作成。授業アンケートによる取り組み意識の肯定率80%以上をめざす。 b 語数2・3年4万語1年3万語維持 c 全生徒対象のスピーキングテストを年1回以上実施。 ・海外英会話研修への参加15名以上。 ・校内英会話研修への参加15名以上。 ・短期語学研修の生徒満足度9割。 エ a 平日の家庭学習時間60分以上の生徒の総数が学年総数の過半数を占めること。(令和元年度49.8%) b 阿倍高塾の生徒満足度60%の維持。 c 学力生活実態調査等の成績の経年比較とBゾーン以上の成績を有する生徒の総数が学年総数の過半数を占めること。(令和元年度65%) ・英語学力調査トータルスコア430。(令和元年度420) ・中堅・難関大学合格者数の300名(8クラス)達成。(令和元年度340)(9クラス) オ a 各説明会等での生徒および保護者アンケートの検証を経て、充実・改善を進める。 ・アンケート(保護者)「進路指導・情報提供に関する肯定値」80%の維持向上。 b センター試験出願者数割合4割程度。(令和元年度37%)</p>	<p>ウ a 「学習基礎(朝学)への取り組み」の肯定率87%( ) b 語数数値に現せず( ) c スピーキングテスト( ) ・参加型英会話研修はいずれも実施中止(-) エ a 平日の学習時間60分以上1・2年調査37.1%( ) b 阿倍高塾の生徒満足度66%( ) c Bゾーン以上の成績を有する生徒1・2年78%( ) ・英語学力調査トータルスコア452( ) ・中堅・難関大学合格者数305名( ) オ a アンケート検証実施。 ・「進路指導・情報提供に関する肯定値」67%( ) ・センター試験 共通テスト出願者割合23%( ) コロナウイルス感染防止対策の影響を検証する必要有り</p>
<p>(2) 志学・総合学習(探究)の推進</p>	<p>(1) 志学、人権・道徳教育、総合学習(総合探究)を総合的に行う実施計画推進 (2) 国際交流活動の充実 (3) 読書活動の推進</p>	<p>ア a 志学、人権・道徳、総合学習(総合探究)各委員会で、学年と連携して新学習指導要領を踏まえた指導内容を充実する。 b 総合学習(総合探究)でキャリア教育の取組みを計画的に推進する。 イ これまでの取組みの検証を踏まえて、引き続き、芸術鑑賞、人権講演会、美化活動、挨拶キャンペーン、志学の川柳募集などを企画し、その充実を図る。 ウ 「花いっぱい学校・日本一きれいな学校」を目標に、『阿倍高を美しくする会』の支援とともに周辺地域のボランティア美化活動をより推進する。 エ 人権教育、道徳教育推進計画を作成する。 オ 国際交流委員会の活性化を図り、積極的に外国人短期研修等を受入れる カ 図書館を中心に読書・学習活動の推進を図り、読書習慣を身につける取組みを実施するとともにビブリオバトル(トーク)の推進を図る。</p>	<p>ア a 系統立てたキャリア学習を計画する。 ・アンケート(教員)肯定値「キャリア教育」6割以上。 b 月1回以上、生徒間の議論を組み込んだ総合探究を実施する。 イ a アンケート(生徒)「豊かな心や生き方について考える機会がある」肯定値70%以上の維持。 ウ アンケート(生徒)「授業にふさわしい環境」肯定値7割。 生徒自治会、同窓会、保護者、教職員が連携して年間2回の美化活動の取組みを推進する。 エ 拉致被害教材「めぐみ」を活用した人権教育を1回行う。 オ 国際交流参加生徒数のべ80名以上(部活生徒含む)。 カ 図書館だよりの定期的発行(令和元年度5回を維持する) ・年間貸出し冊数一人1冊以上をめざす。</p>	<p>ア a (教員)「キャリア教育」肯定値86%( ) b キャリア学習、SDGsの導入による議論実施( ) イ 「豊かな心や生き方について考える機会がある」肯定値68%( ) ウ 「授業にふさわしい環境」肯定値78%( ) 年間2回の美化活動はコロナで縮小して実施( ) エ 「めぐみ」は1学年HRで実施( ) オ 国際交流計画中止(-) カ 図書館だよりの発行5回( ) ・コロナで貸出自粛(-) コロナウイルス感染防止対策の影響を検証する必要有り</p>

府立阿倍野高等学校

<p>(3) 府民に信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1)安全で安心な学校づくりと意欲ある学校生活</p> <p>ア 支援相談委員会の充実</p> <p>イ 生徒支援室関連業務の充実</p> <p>ウ 美化関係業務の充実</p> <p>エ 部活動の充実</p> <p>(2)学校運営体制の強化</p> <p>オ 組織力の強化</p> <p>カ 教員の育成</p> <p>キ 働き方改革</p> <p>ク 保護者連携</p>	<p>生徒満足度の向上を図るべく授業と学校行事、生徒支援の各面でより一層生徒の主体性を育み、意欲ある学校生活を促す。</p> <p>ア 支援相談委員会を充実させ、必要に応じてケース会議等を開催し、生徒支援の充実を図る。また、SC のカウンセリングマインドに関する研修を計画し、スキルを向上させる。</p> <p>「高校生活支援カード」を面談などで活用。</p> <p>イ a 自治会活動の一層の活性を図る。生徒の主体性と自治運営力を向上させ、各行事の進化、発展をめざす。</p> <p>b 遅刻指導を徹底する。</p> <p>c 安全な通学、特に自転車通学の事故防止のための巡回指導やカッパ着用指導を充実させる。</p> <p>d 風紀委員の役割の充実。(挨拶・自転車駐輪指導等)</p> <p>e 生徒の健康管理の意識を高める。</p> <p>f 自治会とともに学校食堂の魅力の向上を図る。</p> <p>g 自然災害への防災体制の強化及び防災教育を推進する。</p> <p>ウ a 年3回の安全点検を実施し、危険を排除する。</p> <p>b 清掃が行き届く分担場所の工夫と清掃の確実な実施。</p> <p>c 生徒自治会を主体にクリーンキャンペーンを実施し、校内美化活動を通して愛校心と仲間意識を育む。</p> <p>エ 大阪府運動部活動の在り方に関する方針の主旨を踏まえ、バランスのとれた部活動を推進する。</p> <p>オ 教職員全体のチーム意識を高めるなど組織力の強化を図る。</p> <p>カ 若手養成講座の開催。</p> <p>キ 全校一斉退庁日及びノークラブデーの実施、長時間労働削減のための業務効率化と意識改革を図る</p> <p>ク 保護者との意見交換や意思疎通による連携を図る。</p>	<p>ア ・アンケート(生徒)の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定値 70%以上。</p> <p>・支援相談委員会の取組みを1.2学期末に全教職員で共有し、意思疎通を図る。</p> <p>イ a 各行事で生徒アンケートを実施。</p> <p>生徒満足度、9割の維持(体育大会、文化祭)。</p> <p>b 遅刻者数 年間1人1.5回以内をめざす。</p> <p>c 自転車通学生徒の交通法規遵守、マナーの向上、カッパ着用指導。年間事故件数、各学年1件以内をめざす。</p> <p>d 自転車駐輪に関する苦情件数0をめざす。</p> <p>e 保健 HR の実施を行い、年間1回以上危険薬物についての知識を高める。</p> <p>f 食堂利用生徒の満足度を向上させるため自治会執行部と協議する。</p> <p>g 災害発生時等、緊急時の生徒の安否確認や連絡確認をメールシステムやH.P等で実施できる体制を整え、防災教育を推進する。</p> <p>ウ a 安全点検やアンケートを実施し、問題点は速やかに改善する。保護者からの指摘件数0件をめざす。</p> <p>b アンケート(教員)「清掃がいきとどいている」の肯定値 70%の維持。</p> <p>c クリーンキャンペーンへの参加者数 300人以上維持。</p> <p>エ 適切な休養日及び活動時間の設定に基づいた年間計画書の提出。</p> <p>オ アンケート(教員)「校内人事、校内連携、教職員間の意思疎通」平均 60%への向上。</p> <p>カ アンケート(教員)「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」(令和元年度 53%)の向上。</p> <p>キ 業務効率化・意識改善・相互支援についての研修を1回以上実施</p> <p>ク 各学年保護者会を1学期に実施する。</p>	<p>ア・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定値 60%( )</p> <p>・支援相談委員会からの報告実施( )</p> <p>イ a 体育大会、文化祭の実施中止(-)急遽、文化部発表会、学年別スポーツ大会実施に好評( )</p> <p>b 遅刻者数年間 1.31( )</p> <p>c 自転車年間事故件数 2件( )</p> <p>d 自転車駐輪の苦情 0件( )</p> <p>e 危険薬物 HR 実施( )</p> <p>f 生徒の要望を受け入れたメニュー改定( )</p> <p>g メールシステム体制を活用したコロナ感染防止に係る情報提供、生徒指示の徹底( )</p> <p>ウ a 保護者からの指摘 0件( )</p> <p>b「学習に適した環境を維持できている」75%( )</p> <p>c クリーンキャンペーン中止(-)</p> <p>エ 部活年間計画の提出( )</p> <p>オ 「校内人事、校内連携、教職員間の意思疎通」45%( )</p> <p>カ 「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制」41%( )</p> <p>キ 業務効率化・意識改善・相互支援についての研修できず( )</p> <p>ク 修学旅行保護者会実施2年のみ(-)</p>
	<p>(3)開かれた学校づくり</p> <p>ケ H.P、メール発信</p> <p>コ 広報</p> <p>サ 地域交流</p>	<p>ケ 改新されたホームページ、メールマガジンシステムの充実を図る。</p> <p>コ 広報活動の展開を図る。中学校訪問の戦略化を図る。</p> <p>サ 家庭科選択生徒や部活動生徒、有志生徒中心に地域行事やボランティア活動に取り組むことにより地域との交流を深める。</p>	<p>ケ アンケート(保護者)「学校のH.Pをよく見る」肯定値(令和元年度)42%の維持向上。</p> <p>中学校訪問数(令和元年度 28校)を維持</p> <p>コ 隣中学校を中心に情報、資料等を用い、より丁寧な訪問を計画し実行する。学習塾にも情報提供を行う。</p> <p>サ 他校種や地域の方との交流回数のべ 10回以上をめざす。</p>	<p>ケ 「学校のH.Pをよく見る」77%( )</p> <p>コ 近隣中学校を中心に情報、資料等を用い、より丁寧な訪問を計画し実行( )</p> <p>サ 交流は中止(-)</p> <p>コロナウイルス感染防止対策の影響を検証する必要有り</p>